
短歌ごっこ'10.弥生

逸見

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短歌「つこ」 10・弥生

【ZPDF】

Z2796M

【作者名】

逸見

【あらすじ】

日常を詠んできます

短歌の形式だけど、「短歌」と言い切つてしまつのはなんかおこがしい

そんな訳で「短歌「つこ」」です

穏やかな
日差し春とは
言えなくも
三寒四温の
四温でじょうか

それだけじゃ
だめだと思う
いつだつて
自分にダメ出し
自分にエール

存在す

ただそれだけで
ありがたい
ここに私が
そこに貴方が

ズキだとか
キュンとかチクとか
ドキッとか
アスタリスクな
咳き続く

ムキになり

画面凝視で

連打する

呆れるほどに

ゲームなワタシ

隙あらば

うねりとなつて

打ち寄せる

さざ波のある

ちっぢやな海だ

くるまた

布団のほのかな

温かさ

だんだん解凍

されてくみたい

「大人なら
もっと賢く
なれるでしょ」
「それができれば
苦労はしない」

文字にする

勝手気ままな
つぶやきは
以上でもなく
以下でもない

シーンといつ

効果音が
聞こえそう
車の音さえ
聞こえぬ夜に

巨木より

すすきの方が
強いて
書いたあの日を
忘れていない

出だししか

思い出せない

早春賦

春は名のみの

風の寒さよ

このままま
跡形も無く
消えたいと

思う日も有り
人生長いと

閉め忘れ

音で知らせる

冷蔵庫

賞味期限も
音で知らせて

醜いし

哀れでもある

もやもやを

無くしてしまつ

風よ吹け吹け

節分も

バレンタインも

桃の日も

何とはなしに

過ぎて行く

髪型を

変えてみようか

どうしようか

思う間が

ちょっと楽しい

春と冬

日替わりに来る

三月は

毎朝服に

迷つてしまつ

毎日は

四則が混じる
式のよう

もつと上手に

引き算したい

番組の

中で流れた

沢田知可子

少し画面が
滲んで見えた

固い蓋

開かずにその手

ふと止めて

思わず迷う

左か右か

道端に

仲良く並んだ
野の花の
白さに惹かれ
立ち止まり見る

ついいつも
後回しにする

足の爪

寝る前気づく
また切り忘れ

少しだけ

雨の残つた

朝の道

細かい雲

傘はいらない

泣きそうな

波が押し寄せ

来る夜は

我慢しようか

泣いてしまおか

朝寝坊

楽しめる日々

なぜ定時

自力で目覚める
しかもすつきり

苛立ちと

ため息は人ぐすませる

輝くことは

年々大変

昨日見た

冷たい雨に

なる予報

ちゃんと当たつて

雨の土曜日

訳あつて

チェックのネック

ストラップ

意外に便利

意外にかわい

明日が今日

明日が昨日に

なっていく

あつという間に

また春が来る

今日はまた
寒さの戻る
冬日和
芽吹いた新芽も
北風受けて

久々に
ストーブ恋しい
三月の
朝に続けて
くしゃみを二つ

大雪と
桜便りを
同じ日に
テレビで見かける
広いね日本

たまにはと
冒險をして
失敗す
つけると意外に
派手な口紅

風はまだ
春のそれとは
違つけど
水張る田を見て
近きを感じる

星ほどの
言葉の中から
形無き
感情あらわす
ひとつを探す

生まれては
やがて消え行く
輪廻の輪
つながり続ける
その中の一つ

長く鳴る
クラクションの
音響く
なんて悲しい
音なんだろう

真矢みきの
言葉に深く

頷いて

あれほど効果
出るを夢見る

揺れながら

行つたり来たり

迷い道

迷路の出口

まだ探してゐる

物差しの

種類はたくさん

あるでしょ?

共通単位

存在し難い

毎日が

日曜ならば

嬉しいが

そしたら毎日

月曜気分か?

忙しい
一日がいい
頑張つて
生きてる氣がする

自己満足だけど

ホットより
ドロリッヂに
手が伸びた
好みで感じる
季節の変わり目

まだ少し

肌寒い夜

残量を

氣にしながらの

ストーブ点火

あの声は

早く目覚めた

蛙かな

合唱前の

ソロパートなり

付けて喋る
長ばなし

充電器

携帯電話の

意味無くない?

ブーツより

パンプス目が行く

出掛け前

服も徐々に

脱皮する春

育ち行く

子らの成長

見て交わす

「道理で私も

年取るはずよね」

何もかも

忘れ去ろうと

思わない

痛みすらも

証なのだし

上下して

成立をする

シーソーの

微妙なバランス

楽しむように

ほころびも

咲いてる時も
散りゆくも
それぞれ楽しむ
桜の季節

昼間でも
照明のいる
北向きの
部屋でも感ず
春の足音

意味も無く
浮き立つ気持ち
わき起こる
春の魔法の
力は偉大

10円玉

いくつもいくつも

投入し

かけてたあの頃

長距離電話

切り捨てる

投げ捨てそして

割り切つて

行く潔さ
目指す毎日

マーブルな
思いを言葉に
換えること
楽しくもあり
難しくもあり

充電を

忘れ朝から

目盛り1

テンショントがる

今日のスタート

強風と

嵐が交互に

来る海に

浮かぶ小舟

今日も無事

見え隠れ

しながら春は

少しずつ

近づいて来る

あともう少し

天秤に

かけるとどちらに

傾くか

量り得ぬもの

量ろうとする

真新しい

ノートの最初の

一文字は

ちょっと気取つて

書いてしまつ

わざやかな

抵抗あるいは

防御策

ごまめの歯軋り

その程度だね

弧を描く

線と線とが

リンクする

重なり合つてく

円の世界で

触れそうで
触れはできない

距離感を

ただ持余す

ペリカン一羽

消えて行く
ものは切ない
花ならば
季節が巡れば
いづれは咲くに

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2796m/>

短歌ごっこ'10.弥生

2010年10月17日11時31分発行